横浜三工会 News

No.17
2024年9月吉日

横浜国立大学 工学部 物質工学科および
理工学部 化学・生命系学科内工学系同窓会

CONTENTS

・同窓会名簿管理システム
・受賞近況情報
・着任教員ご挨拶
・退任教員ご挨拶
・なぎなたで金メダル獲得
・卒業生便り
三菱重工業株式会社
海上技術安全研究所
雪印メグミルク株式会社
・会計報告
・活動報告
・事務局からのお知らせ

同窓会名簿管理システムが始まりました！

横浜国立大学理工系同窓会　会員情報システム
〈ログイン画面　https://meikyousizen.alumnet.jp/〉

この度 2024 年 8 月に同窓会会員様にむけて新しく稼働いたしました「名簿管理システム」の ID・PW のお知らせを郵送させて頂きました。

同窓会会員情報は、同窓会活動の基盤となるものです。これまでは事務局が会員各位との限られた機会を通じて得た情報をもとに、会員情報の更新等、管理に鋭意努力してきましたが、特に卒業生の方々の会員情報は、時を経るにつれてその更新管理が困難となるケースが多く、同窓会としての本来の機能やサービスを十分に提供できない状況となっていました。

こうした状況をふまえ、改善するために理工学部系の同窓会が足並みをそろえて、それぞれの会員情報管理を外部の共通の名簿システム（アルムネット）へ移行することにしました。これにより今後は、個人情報保護対策が講じられたネット上で、会員各位が、いつでもオンラインで会員情報の修正、追記、削除などができるようになります。また長年難しかった同窓会員全体での活動活性化に向けて、このデータベースを利用して企画や連絡にも使って頂くことも可能です。

当面の間、稼働が安定するまでにご迷惑、ご不便をおかけするかと存じますが、サービス向上のために今後も邁進してまいります。何卒ご理解、ご協力を頂ければ幸いです。

受賞近況情報

日本ばね学会 優秀ポスター賞 受賞

2024 年 6 月 4 日に明治大学にて開催された「日本ばね学会 2024 年度春季ばね及び復元力講演会」のポスターセッションにおいて、大学院理工学府 化学・生命系理工学専攻 博士課程前期 2 年 の 若松航平 さん（指導教員：高橋宏治 教授）が、「優秀ポスター賞」を受賞しました。

受賞対象 と なった 発表 は、「ボールバニシングによる表面欠陥を有するアルミニウム合金の疲労強度向上」です。研究内容およびプレゼンテーション能力が高く評価され、賞が贈られました。

日本機械学会賞（論文）受賞

2024 年 4 月 18 日 に 明治記念館 で 開催 された 一般社団法人日本機械学会の定時社員総会において、田島迅人 さ ん（大学院理工学府博士課程前期修了）、小林優介さん（大学院工学府博士課程前期修了）、奥山邦人 名誉教授 の 3 名が日本機械学会賞（論文）を受賞しました。

受賞論文 の 題目 は「高温固体面 に 衝突 す る 微小液滴 の 固液接触状

態の観察」です。高温体と液体の接触において、接触面温度が液体の熱力学的過熱限界温度を超えるような高温では、分子のゆらぎによる自発核生成現象が生じ、空間密度の高い高圧微細気泡の生成により直ちに接触が妨げられると考えられますが、本論文では、微小液滴の高速衝突系を用い、自発核生成のスケールに近づけたミクロな観察を駆使することにより、むしろ自発核生成により接触が促進されることなどを明らかにした内容が高く評価されました。

日本火災学会研究発表会 学生奨励賞 受賞

賞　状

2024年5月25, 26日に開催された日本火災学会研究発表会にて大学院環境情報学府博士後期課程2年の薄木響志朗さん(指導教員:熊崎美枝子 教授)が学生奨励賞を受賞しました。学生奨励賞は当該学会で行われる研究発表の中から評価・選考された、火災科学の発展に寄与し、独創性と将来性に富む若手研究者に送られます。

講演題目は、「鉄フェナントロリン錯体の合成及び燃焼抑制効果の評価」です。燃焼抑制効果の高いフェロセンに着想を得て、フェナントロリンを用いた鉄錯体を設計・合成し、燃焼抑制効果を測定しました。合成したいずれの物質も、既存の粉末消火剤原料よりも高い燃焼抑制効果を持つこと、また化学構造上から消火剤として有効な構造について検討した結果を報告しました。

着任教員のご挨拶

室町 実大准教授のご挨拶

2024年4月1日より横浜国立大学に着任しました室町実大と申します。慶應義塾大学機械工学科を卒業しました。修士修了後に三菱重工業に就職してガスタービン発電所のエンジニアになりましたが、やはり研究者になりたいと一念発起して辞職し、後期博士課程に進学しました。学位取得後の2013年4月に産業技術総合研究所に入所して研究者としての活動をスタートしました。11年余り勤めたあと横浜国立大学に着任し、このたび独立した研究室を持たせていただくことになりました。

私の専門はハイドレートで、産業技術総合研究所では国が主導する海底メタンハイドレート資源開発プロジェクトに参画していました。海底メタンハイドレートのメタンガス生産プロセスにおいては、ハイドレートや砂泥によるプロセスの閉塞リスクがあり、対策技術の一つである流動化技術について研究しています。一方でハイドレートの中にはセミクラスレートハイドレートという面白い物質があります。通常のハイドレートと異なり、セミクラスレートにはイオンが入っています。イオン液体のように多種多様なイオンを利用でき、色々な構造のハイドレートを作ることができます。室温付近の温度で凝固・融解する特性を活かし、蓄熱やガスの分離・貯蔵といった省エネ技術の研究に取り組んでいます。水素結合のように弱い結合を利用したプロセス・材料は、今後のカーボンニュートラル時代において作りやすく壊しやすいものとしてニーズが高まってくるものと思っています。横浜国立大学でも引き続きこれらの研究を継続していきます。

私自身が神奈川県出身で、企業時代の友人が横国出身だったこと、かつて横国でセミクラスレートの先駆的な研究がされていたことも相まって当初からご縁を感じております。横国の自由闊達な学風を肌で感じ、これからの教員生活が大変楽しみです。これまでの企業や研究所での経験を学生にフィードバックし、教育研究にまい進していきたいと思っています。

これからどうぞよろしくお願いします。

退任の教員のご挨拶

三宅 淳巳教授のご挨拶

本年3月をもって定年退職いたしました。学生時代の6年、その後教員となって40年と合計46年間本学に通ったことになり、改めて感慨深く感じています。この間、工学部/理工学部、工学研究院/学府、環境情報研究院/学府、先端科学高等研究院と所属が変わり、2021年からは理事・副学長(研究・財務担当)に任ぜられ、微力ながら全学の研究推進を下支えできたことは大きな喜びです。

教員の本分は教育、研究にあることは言うまでもありませんが、これに加えて職責に応じて学内運営、学外活動等についてもエフォートを割くことが求められます。これは大学の顧客であり最大の成果となる人財の輩出と、組織、国民への貢献のためであり、自身の専門である安全工学をベースとして「安全・安心社会の構築」を目指した教育・研究を念頭に過ごしてきました。

この間の思い出は枚挙に遑がありませんが、何とか定年まで大学にて職を続けることができたのは、ひとえにご指導いただいた先生方、支えていただいた事務職員の皆様、そしてともに終着点のない研究に向き合ってくれた多くの学生、教員の皆さんのおかげと改めて感謝する次第です。

安全の歴史は災害・事故との闘いの歴史であり、自身の資質向上のため、多くの災害現場や遺構を訪れてきました。その中でも1984年に発生したインド・Bhopalの毒ガス漏洩事故に関し、2004年に開催された事故後20年の記念シンポジウムに出席し、廃墟となったまま残されている同工場を訪問したことはその後の自身の研究の方向性に大きな影響を及ぼした貴重な経験となりました。　また、東日本大震災直後から幾度となく被災地を訪れ、その縁もあって災害関連調査や復旧復興に向けた研究に携わることができたことも強く記憶に残っています。

退職後は、昨年度発足した総合学術高等研究院上席特別教授として引き続き大学において研究を続けるとともに、大学発ベンチャー「合同会社セイフティインテリジェンス」を立ち上げ、産業安全の高度化に資する研究や各機関・企業からの技術相談等に対応しています。

様々な課題と共生する時代への転換期において、安全・安心に加え、健全・公正・快適な社会の構築と醸成に向け、人生の第三楽章を楽しみたいと考えています。横浜三工会の皆様におかれては、世界情勢が流動的な状況の中、自身のために充実した生活を過ごせるようお祈り申し上げる次第です。

なぎなたで金メダル獲得

中村 優太さん（伊里研 M2 在学生）
世界選手権男子団体で金メダル獲得

三工会会員の皆様、いつもお世話になっております。伊里研究室、博士課程前期 2 年の中村優太と申します。私は現在、安全工学を専攻しており、次世代水素キャリアおよびエネルギー物質としてのアンモニアボランの、化学反応論に基づく安全研究に取り組んでおります。また研究の傍ら、私は 10 年前から日本の武道の一つである「なぎなた」に取り組んでおります。この度、2024 年 7 月に米国コロラド州で開催された世界なぎなた選手権大会に日本代表選手として出場し、参加国 14 カ国のうち、団体戦優勝、演技競技準優勝という結果を収めたため、こちらでご報告させていただける運びとなりました。武道であるなぎなたは一般的なスポーツと異なり、稽古を通じた人間力の養成を大きな目標としております。これは、人道主義に基づく学問とされる安全工学と通ずる部分が多くあると感じております。今後も安全工学となぎなたを両立し、いずれも情熱をもって取り組んでいく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

卒業生便り

三菱重工業株式会社　渡辺　泰様
大学時代に出会った学術分野の重要性

1997 年に工学部 物質工学科を卒業、1999 年に工学研究科 人工環境システム学専攻修了の、渡辺と申します。所属研究室は飯田・奥山研究室でした。

修了後は、三菱重工業株式会社に入社し、研究所で 18 年余りを過ごした後、現在は事業部で冷熱機器の製品事業に携わっています。

私が在学した時代は、工学部物質工学科として 200 名規模で入学し、途中で工学系、化学系、生物系に分かれ、工学系の中でまた更に各研究室が属する化学工学、安全工学、エネルギー工学などに分かれる仕組みでした。

専門や研究室を選ぶ際には、それほど深く考えず、なんとなく熱が面白そう・・・という直感だけで、化学工学講座の熱を扱う飯田・奥山研究室に進みました（先生ゴメンナサイ）。まさか、その時選んだ「熱」にその後数十年間も関わり続けるとは想像もせず。。。

三菱重工では、社員の専門分野を自他共に、○○屋と呼ぶ習慣があります。社内には圧倒的に機械屋が多いのですが、ほかにも材料屋、電気屋、化学屋、トライボ屋、文系職種も経理屋などとも呼ばれたりします。そんな中、私は僭越ながら「熱屋」と名乗り、研究所にて、長らく熱とエネルギーマネージメントの観点から官 / 民向け様々な製品や事業の支援、研究を行ってきました。そのうちに、社内の製品の中で、最もダイレクトに熱移動を目的とする製品の一つである、冷熱機器の事業に呼び寄せられ、現在は研究所を離れて、冷熱機器の製品事業にどっぷり浸かっています。

冷熱機器は地球温暖化抑制への寄与に関して、ほかの多くのシステムと同様にエネルギー消費低減が一つの責務で、こちらには冷熱機器のヒートポンプ技術が大きく貢献しているのですが、もう一つ地球温暖化に関する大きな課題を抱えています。それは冷媒として用いているフロンの地球温暖化係数が高く、エネルギーの課題だけでなく、この冷媒による温暖化の抑制に取り組む必要があることです。

思い返せば、私は大学・大学院時代、熱分野の中でも沸騰を扱っており、沸騰現象の実験や観察を行うのに沸点、安全性、絶縁性等の観点で扱いやすいフロンを実験用の流体に使っていましたが、ちょうどそのころ「フロンはオゾン層を破壊して環境に良くない。使わないようにするぞ！」という社会機運が高まり、急遽、研究の本題とは少しズレた、代替流体の選定に頭を悩ませた思い出があります。また、大学院時代には、沸騰の現象そのものからは少し逸れて、カオスの数学的理論を使った沸騰の挙動予測の研究を立ち上げさせてもらったりもしました。

現在仕事で携わる冷熱機器についても当時、オゾン層保護対応の代替冷媒選定が行われ、その後に私は入社していますので、これを経験していない世代の筈なのですが、大学の研究で、フロンの代替選定を経験してしまった私は、今の温暖化防止対応の代替冷媒選定をデジャブに感じてしまいます。さらに、大学院時代に沸騰の挙動予測によく使った、多次元状態空間のマハラノビス距離などというワードも、近年、製品の故障予知などで登場する場面は多く、懐かしく思いながら接しています。

どうやら数十年たった今も、大学・大学院時代になんとなく足を踏み入れた分野で、脱線した経験も活かしながら生きているようで、色々逸れたり、ズレたりしながら自由に学ばせていただいた、大学や先生に深く感謝です。

海上技術安全研究所　笛木隆太郎様
責任とやりがいの大きな仕事

2019年に工学府　機能発現工学専攻　博士課程後期を修了しました笛木隆太郎と申します。

在学中は高橋宏治教授が主宰されているエネルギー機器材料研究室に所属しており、ピーニングによる溶接部の疲労強度改善と表面欠陥の無害化に関する研究に取り組んでおりました。また、横浜三工会の学生役員をさせていただいており、様々な研究室の学生とイベントの企画や定期的にみなとみらいで打ち合わせをしていたことを懐かしく思い出します。

大学院修了後は海上技術安全研究所に入所し、現在5年が経過したところです。海上技術安全研究所は、国土交通省所管の国立研究開発法人であり、海事・海洋技術に関する中核的研究機関として、船舶を中心とする海上交通の安全および効率の向上のための技術や、海洋資源および海洋空間の有効利用のための技術、海洋環境保全のための技術に関する研究等に取り組んでいます。大規模な試験設備が充実していることも特徴であり、試験水槽、構造材料寿命評価試験装置、ガスエンジン試験設備や操船シミュレータなどを駆使して研究成果の社会実装を念頭に置いた特色ある研究プロジェクトを数多く実施しております。

私は現在、構造・材料強度分野の研究者の一員として、新たな先端技術・システムの開発、既存技術を船舶へ実装するための研究や鋼船規則・舶用品のJIS規格等の改訂に資する研究などに従事しています。自身の研究や提案が製品やルールに反映されていくこともあり、その責任とやりがいの大きさの両方を感じています。また、科研費等の競争的資金への応募も推奨されており、自分自身で発案した研究課題にも取り組んでいるところです。

私は船舶海洋工学分野の出身ではなかったため、当該分野の基礎知識や業界知識がほとんどありませんでしたが、入所後の研修や研究業務を通して着実に習得できているように感じています。また、研究提案や成果報告を書面・口頭で行う機会が多々ありますが、博士課程後期までに培った研究申請書作成、論文執筆や研究プレゼン能力をいかして対応することができており、指導教員の高橋先生をはじめ、在学中にご指導いただきました先生方に改めて感謝しております。

まだまだ未熟者ですが、ステップアップを重ねながら、将来的には規模の大きな国の研究プロジェクト（国プロ）で採択されるような先進性・革新性の高い研究課題を発案できるようになり、それをマネジメントしていくことのできる実力をつけられるよう、研鑽を重ねてまいる所存です。

雪印メグミルク株式会社　永牟田寛信様
乳業メーカー製造マンとしての醍醐味

2015年3月に工学府機能発現工学専攻　小泉研究室を卒業しました、永牟田と申します。学生時代は微生物により地下水や河川に含まれているFe^{2+}やMn^{2+}を除去する、生物ろ過法の機構解明を目的として、生物ろ過槽における細菌群集構造の解析を行っていました。

卒業後は雪印メグミルク株式会社に入社し、現在まで製造現場にてオペレーター業務の傍ら、品質管理活動、さらには、IoT、DX化に向けた取り組みを担当してきました。

オペレーターとしては、業務用ホエイパウダーの製造、家庭用バターの製造、牛乳・乳飲料の殺菌に携わりました。乳というものは乳牛に与える飼料や飼育環境により、その性質が変わってきます。また、季節によっても乳質に変化が生じるため、日々原料として取り扱う乳の性質を見ながら製品を製造することが要求されます。また、原料だけでなく製造現場における気温、湿度などの環境も最適な製造条件を考える上では重要な要因になります。日々製造条件が異なるため、製造毎に試行錯誤しながらお客様に満足していただける製品を提供することに充実感を覚えています。

製造現場における品質管理の担当としては、各規程に則った運用を行うための教育、改善活動を実施してきました。当社が提供する食品は、もちろんのことながら高い安全性を保った状態で皆様に提供されなければなりません。このため、社内規定や各法令に基づいた品質管理に加え、国際的に認められているAIBやFSSC22000などのシステムを積極的に導入し、より高い水準で食の安全を担保しています。私はこのような規定、法令、各システムに則った品質管理が徹底されているか、現場レベルで管理し、職場規範やルールの改訂、教育指導や現場のシステム改善を行い、高いレベルでの品質管理活動を実施しています。

IoT、DX化に向けては、属人化していた業務を誰でもが高いレベルでこなせるようにすることを目的として、これまでに培ってきたノウハウ等の標準化、電子帳票やデジタルデバイスを利用したオペレーター業務や管理業務の推進を行っています。これまで求められていた知識や能力とはまた異なるものが求められますが、より良い製品をより良い環境で製造できるようになることをモチベーションに日々学びながら業務に取り組んでいます。

様々な事に目を向けながら仕事をこなさなければならない所に苦労を覚えますが、そこがまたこの仕事の楽しい所でもあります。そのような環境においても私が仕事に対して努められるのは、在学中にお世話になった皆様のおかげです。皆様に感謝申し上げると共に、今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

会計報告

令和５年９月 17 日開催の横浜三工会総会で承認されました、令和４年４月１日～令和５年３月 31 日の会計を報告させていただきます。

令和４年４月１日～令和５年３月 31 日

収入

前年度繰越金	¥8,800,751
横国大校友会（バイオ EP1 年生）	¥690,000
名教自然会（化学応用 EP2 年生）	¥2,010,000
年会費・寄付など	¥436,840
その他（利子）	¥70
合計	¥11,937,661

支出

工学部同窓会連合年会費	¥195,385
三工会ニュース印刷・配送	¥666,078
学生表彰（奨励、プレゼン賞）	¥67,420
学生幹事企画イベント等支援	¥213,970
卒業生記念品	¥169,400
学位記授与式お花	¥5,500
今年度寄付金、永久年会費入金者お礼品発送費	¥5,920
その他事務、消耗品等	¥540,979
合計	¥1,864,652
残高	¥10,073,009

振替口座残高	¥1,651,448
普通貯金残高	¥8,404,801
現金残高	¥16,760
合計	¥10,073,009

2023 活動報告

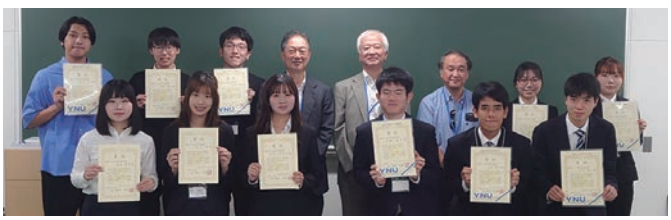
令和５年５月 30 日に横浜三工会主催 研究室対抗ボウリング大会を開催 !!

2023 年５月 30 日（火）に「横浜三工会主催 研究室対抗ボウリング大会」を開催しました。新型コロナウイルスの影響により４年ぶりの対面イベントとなりましたが、当日は 10 研究室から総勢 72 名が集まり、熱戦が繰り広げられました。大会終了後には１位の荒牧研、２位の光島・黒田研、３位の三宅（淳）研と、くじ引きで決められた８位の三角研、10 位の松澤研に景品が贈呈され、大盛況のうちに終わりました。研究室内外のさらなる交流のきっかけとなっていれば幸いです。ご参加くださった皆様、誠にありがとうございました。

令和５年９月 17 日に R5 年度総会・講演会・懇親会を開催 !!

常盤台キャンパスを会場として開催された内閣府主催の「ぼうさいこくたい」と横国 Day（ホームカミングデー）に合わせて 2023 年９月 17（日）に横浜三工会総会・懇親会を開催致しました。総会において、2022 年度の活動報告、会計報告が承認されるとともに、羽深等名誉教授による特別講演会及び懇親会を開催しました。

総会においてに、化学・生命系学科化学応用 EP4 年生 10 名、バイオ EP4 年生３名を対象として、塩沢会長から学業優秀者の表彰として横浜三工会学生奨励賞を授与致しました。



令和５年９月 29 日に３年生交流会を開催 !!

令和５年９月 29 日（金）に化学応用 EP3 年生対象の交流会を開催いたしました。３年生は新型コロナウィルスの影響で昨年の EP 配属時に歓迎会が出来ませんでした。そのため、開催の時期を模索しておりましたが、夏休み明けで、研究室配属前となるこの時期に交流会を開催いたしました。当日は研究室説明会の２日目にあたり、全ての研究室の説明が終わった後に交流会を設けました。こちらも横浜三工会のご支援をいただいております。心より感謝申し上げます。参加者は、３年生、教員そして研究室所属の学部４年生や修士学生を若干名加えまして、全体で 80 名程度でした。EP 代表の岡崎教授より挨拶を頂いた後、乾杯を行いました。研究室を選ぶ時期にもあたるため、至る所で会話が絶えず、会は大いに盛り上がりました。３年生は教員、上級生、同級生とのふれあいや相談、そして雑談を楽しんでいました。このような貴重な機会を与えてくださりありがとうございました。

令和５年 10 月３日に２年生歓迎会を開催 !!

横浜三工会のご支援のもと、令和５年 10 月３日（火）に理工学部食堂にて化学応用 EP2 年生の歓迎会を開催いたしました。従来は歓迎会を EP 配属決定後の２年時春学期に行っていましたが、今年度春学期はまだ新型コロナウィルスの影響があり、授業や学生実験ではマスクを着用して行っていた時期でした。飲食を伴う歓迎会の開催は困難だったため、今年度は夏休み明けとなりました。当日は、２年生が秋学期開始直前のオリエンテーションで来校する日であり、その日に合わせて行いました。２年生と化学応用 EP 教員、そして研究室に所属している学部４年生や修士学生を若干名加えまして、全体で 80 名程度が参加しました。EP 代表の岡崎教授より挨拶を頂いた後、

乾杯を行いました。歓談ののち、参加されていた教員全員よりショートスピーチをしていただきました。このとき教員の話に２年生が真剣に耳を傾けている姿が印象的でした。２年生が教員と直接話すことや上級生に相談できる機会ができたことは大変有意義でした。ご支援いただき誠にありがとうございました。

令和５年 12 月３日に第７回 OBOG 会を開催 !!

令和５年 12 月３日（日）　に第７回目の OBOG 会を開催しました。今年度もオンラインでの開催となりましたが、関東だけではなく関西や九州など地方からもたくさんの OBOG が集まり、レクリエーション・歓談と OBOG のキャリア紹介を行いました。歓談の中では学生から OBOG へのお悩み相談も行い、学生にとっては今後のキャリアを考える貴重な機会になったかと思います。ご参加くださった皆様、誠にありがとうございました。

令和６年３月 25 日に化学生命系学科、化学応用 / バイオ EP の学位授与式を開催 !!

今年度はコロナ禍明けとして以前のように学位記を EP 長から手渡しで授与することができ、マスクがない卒業式で改めて新鮮な授与式でした。また、化学応用 EP は卒業論文審査会におけるベストプレゼンテーション賞を４名、グッドプレゼンテーション賞を６名、バイオ EP は最優秀学生賞を１名、優秀学生賞を２名と学生に賞状と図書券を贈呈しました。さらに、卒業生全員に卒業記念品として YNU オリジナルトートバック（横浜三工会名入り）を贈呈しました。

事務局からのお知らせ

本会教員の異動について

・2023 年４月１日付けで　バイオ EP（工学研究院）鈴木市朗先生が講師に昇任されました。
・2024 年３月 31 日付けで　化学応用 EP（環境情報研究院）三宅淳巳先生が定年退職され、４月１日付けで名誉教授の称号が付与されました。
・2024 年４月１日付けで産業技術総合研究所より化学応用 EP（工学研究院）准教授　室町　実大先生が着任されました。
・同日付けで　化学応用 EP（環境情報研究院）熊崎美枝子先生が 教授に昇任されました。
・同日付け　化学応用 EP（工学研究院）伊藤大輔先生が講師に昇任されました。

寄付金・終身会員費のご入金にてご支援頂いた会員さまに向けて

毎年、年会費・寄付金のご支援を頂きまして誠に有難うございます。大切な同窓会費は在学生へのサポートを中心に会報誌発送、新たな名簿システム（アルムネット）等に使用されております。

昨年度（お振込み）より寄付金や終身会員費４万円を頂いた会員様には、近年迎えました理工系創立 100 周年を記念して大学で作成されました「金のしおり」と「記念誌」をこころばかりですがレターパックにてご送付いたします。あと少しの在庫にて無くなり次第終了となりますことご了承ください。

「金のしおり」と「記念誌」

OB・OG 役員、学生役員の募集

当同窓会は OB・OG、学生のボランティアで運営されております。駅周辺で会議や懇親会を開催し、自発的に楽しく活動されております。つきましてはボランティア活動となる運営にご参画頂ける OB・OG、在学生の方は在学学生役員、または事務局までご連絡ください。

横浜三工会の OB・OG、在学生が盛んに交流できるよう、今後とも活動に支援していく所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

横浜三工会
INTEGRATE US, INNOVATE ALL.

（事務局）
〒240-8501 横浜市保土ケ谷区常盤台 79-5
横浜国立大学 理工学部 化学・生命系学科 化学応用 EP 内
TEL:045-339-3991　FAX:045-339-4012
E-mail:yokohamasankoukai@ynu.ac.jp

https://sankou-kai.ynu.ac.jp/
https://www.facebook.com/groups/ynusankoukai/

化学応用 EP のホームページ http://www.cap.ynu.ac.jp/ も参照ください
バイオ EP のホームページ http://www.bio.ynu.ac.jp// もご参照ください